

近畿大学 教育論叢

The Research Journal of the Teacher Education Department
Kindai University

第32卷第1号



2020

■ 近畿大学教職教育部 ■

近畿大学教育論叢

第三十二卷第一号

令和二年(二〇二〇)九月

近畿大学教職教育部

 近畿大学

目 次

論 文

多様性社会に求められるキャリア教育の検討

—女性活躍の視点から—

Examination of Career Education Required for a Society of Diversity :

From the Perspective of Women's Participation

……………丸岡 俊之 (MARUOKA Toshiyuki)… 1

教員のソーシャル・キャピタルとバーンアウトの関連について

The Relationship between Teachers Social Capital and Burnout

……………杉浦 健 (SUGIURA Takeshi)… 25

教員評価システムが教員に受け入れられない根本的な理由

—感情分析とテキストマイニングを使った大阪府教職員の

評価・育成システムに関するアンケート調査自由記述の分析から—

Fundamental Reasons why Teacher Evaluation Systems are not Accepted by Teachers :

Consideration Based on the Results of Analyzing Sentiment Analysis

and Text Mining of Free Descriptions in a Questionnaire Survey

on Osaka Prefecture Teacher and Staff Evaluation and Training Systems

……………杉浦 健 (SUGIURA Takeshi)… 45

短期大学における PBL 授業と運営課題

PBL (Project-Based Learning) in Junior College:

Its Implementation and Operational Issues ……頭師 暢秀 (ZUSHI Nobuhide)… 75

当事者との対話を通じて「精神障害」を捉えなおす

—精神科病院での「当事者研究会」から学んだこと—

Rethinking “Mental Disorders” through Dialogue with the Mental Disordered People:

What We Learned from the Activities of the “Party Study Group” at a Mental Hospital

.....山本 智子・富田たまき・川浪 瑞己

(YAMAMOTO Tomoko・TOMITA Tamaki・KAWANAMI Mizuki)··· 97

ランダムに組み合わせられたペアとの議論を取り入れた

授業スタイルに対する大学生の評価と学習効果

University Students' Evaluation and the Learning Effects of

the Lesson Style Incorporating Discussion by Pairs Decided by Chance

.....吉川 武憲 (YOSHIKAWA Takenori) 111

SDGs の理念を生かした理科部防災研究班の活動とその活性化

Activities and Results of the Disaster Prevention Research Group

in the Science Department with a Focus on SDGs

.....奥田 雅史・吉川 武憲

(OKUDA Masashi・YOSHIKAWA Takenori) 127

数学科教員志望学生の統計指導に関する意識調査(1)

A Study on Consciousness Investigation on teaching

of “data utilization area” among Future Mathematics Teachers

.....西仲 則博 (NISHINAKA Norihiro) 145

小学校の生物学習

— 5・6年の動物学習を中心に—

The Study of Biological Education at the Elementary School:

Learning about Animals in the 5th and 6th Grades

.....玉井 裕和 (TAMAI Hirokazu) 165

Teaching English as a Foreign Language in Japan: To Divide or Not to Divide.....	SHIMO Etsuko	207
---	--------------	-----

大学生のライフスタイルと社会的・職業的自立 University Students Lifestyle and Social and Professional Independence	湯口 恭子 (YUGUCHI Kyoko)	229
--	-----------------------	-----

道徳科の教材研究に関する試論 —「二通の手紙」の分析— A Study on the Analysis of Teaching Materials in Moral Studies Classes: The Analysis of “Two Letters”.....	光田 尚美 (MITSUDA Naomi)	249
---	-----------------------	-----

編集発行内規

投稿要領

編集後記

『近畿大学教育論叢』編集発行内規

第1条 近畿大学教育論叢（以下「本誌」という）は、教職教育部が年1回以上発行する。

第2条 本誌の編集、発行の任にあたるため編集委員会を置く。

2. 編集委員会は、委員長1名、委員若干名をもって構成する。
3. 委員長、委員は、教職教育部教授会の承認を経て、教職教育部長が委嘱する。

第3条 投稿者（執筆者）は、原則として本学園教職員に限る。但し、編集委員会の議を経て教職教育部長により投稿を認められた者はこの限りではない。

2. 投稿者は、別に定める「投稿要領」に従って、原稿を作成することとする。

第4条 原稿の校閲および採否の決定は、編集委員会が行う。

2. 編集委員会は、投稿原稿の本誌掲載の採否を判断するため、審査を行う。
3. 編集委員会は、投稿者に対し、上記審査に基づき、内容の修正等を求めることができる。

第5条 編集発行内規の改正に関しては、編集委員会の議を経て、教職教育部教授会で決定する。

第6条 当該原稿の著作権は、著作者および共著者に帰属する。

2. 著作者および共著者は、当該原稿に係わる複製権、公衆送信権及び譲渡権の許諾を近畿大学に与えるものとする。
3. 近畿大学が当該原稿の電子化・公開を委託する機関に対して、公衆送信権及び複製権の許諾を与えるものとする。

附 則

この内規は、平成24年4月1日から施行する。

『近畿大学教育論叢』

(The Research Journal of the Teacher Education Department, Kindai University)

投稿要領

- 1) 原稿は未発表のものに限る。
- 2) 原稿は原則として、ワープロを使用して作成、提出するものとする。
- 3) 原稿締め切り時に、原稿をコピーしたものを2部、提出する。査読終了後、掲載が決定した論文については、コピーした原稿1部と、訂正したデータをメールで編集委員会に提出する。
- 4) 原稿には表紙を付し、次の事項を記入する。
 - イ. 表題 (含む副題)
 - ロ. 表題の英文 (含む副題)
 - ハ. 氏名、所属、職名
 - ニ. 連絡先 (教職教育部の専任以外の投稿者の場合、メールアドレスを含む)
 - ホ. 別刷りの必要部数 (規定部数を50部とし、それを超える分は自己負担とする)
 - ヘ. キーワード (5個以内)
- 5) 用紙はA4判を用い、原則として横書きで原稿を作成する。40字×30行の書式で、原則30枚以内とする。英文の場合は、原則としてAPAに準拠し、10,000語以内とする。提出に際しては、専門家の英文校閲を経たことを証明する書類を添付する。
- 6) 手書きの場合は、投稿者は編集委員会に申し出る。前項の字数を超えないことを条件に、書式、枚数などを協議する。
- 7) 本文中で、活字の大きさ、書体を変える場合は、具体的に指示する。
- 8) 表、図、写真などは、刷り上がりの大きさを指定し、具体的に指示する。
- 9) その他原稿の投稿に関しては、編集委員会で協議する。
- 10) 投稿原稿の執筆は、次の通りに行う。
 - ①英文の題名、副題、著書名については、すべての単語 (前置詞および、冠詞 theなどを除く) の最初を大文字にする。
 - ②英文論文題名の副題は、コロン (:) で分ける。
 - ③和文の句読点は、(、) (。) を用いる。文献では、コンマ、ピリオドを認める。
 - ④図は、Figure 1、Figure 2あるいは、図1、図2とし、表は、Table 1、Table 2あるいは、表1、表2のように通し番号をつけ、論文内で統一された表記を使用する。

⑤必要に応じて大見出し、中見出し、小見出しを用い、その表記は次のようにする。

大見出し 1. 2. ……

中見出し (1)、(2)……

小見出し ①、②……

⑥引用文献・資料は、以下のように記述する。なお注について文献を示すことも可能とする。

著者名、発行年、題名、出版社、引用ページ数（頁、ページ、p など）

著者名、発行年、論文名、雑誌名、ページ

令和元年5月1日改訂

編 集 後 記

令和二年度の近畿大学教育論叢第1号を発行いたします。

本号には、12本の論文を掲載しています。新型コロナウイルス感染拡大により、本学においても授業のオンライン化が急ピッチで進められました。先生方におかれましては、例年のないほどに大変な新年度の準備に加え、論文の執筆にもご注力賜りましたこと、この場を借りて御礼申し上げます。「学びを止めるな」はもとより、「研究活動も止めない」という先生方の姿勢は、オンラインでの講義や演習、指導を通して学生たちにも伝わり、励ますこととなるでしょう。

近年、教職教育部の専任教員ほかに、他学部の先生方にも多数投稿していただいておりますが、教職教育部の専任教員との共著として、今号には、本学の卒業生である現職の教員や、農学部の学生による論考もございます。『教育論叢』が広く研究発表の場として活用され、『教育論叢』を通じて教育や研究の繋がりが生まれていることを、編集委員会一同、大変うれしく思いますとともに、『教育論叢』が「アゴラ」のように機能していくことを切に願い、今後とも編集活動に力を尽くして参りたいと思います。

これまでに経験したことのない事態に、対応に追われるばかりの数か月であったかと存じまします。しかし、この経験は、これまでの教育や学校の在り方を根本から見つめ直すきっかけにもなったのではないのでしょうか。こうした教育の本質に切り込んでいくような議論が、『教育論叢』でも展開されますことを、大いに期待しております。

どうぞ皆様、次号以降もふるってご投稿いただきますよう、お願い申し上げます。

近畿大学教育論叢編集委員会

光田 尚美、小口 功、下村 隆之、高橋 朋子

近 畿 大 学 教 育 論 叢 第32巻第1号

令和2年9月20日 印刷

令和2年9月20日 刊行

発行人 近畿大学教職教育部長
戸井田 克己

発行所 近畿大学教職教育部
577-8502

東大阪市小若江3丁目4番1号

印刷所 近畿大学管理部用度課(出版印刷)
